

霊的問題の行方（マルコ 7：24～30）

自分だけがこのような大変な問題を抱えていると思う人が少なくありませんが、問題のない人間は世の中にいません。小さくても大きくてもさまざまな問題を抱えて人生を生きています。なので、本当の問題はその問題をどのように扱うかにあります。人の問題、特に人の手に負えない霊的な問題など、それをどのように扱うかによって祝福に転ぶか、災いに転ぶかが決まってしまう。だから、問題のありなしより、問題をどのように処理するのか、その問題をどこに持って行くべきなのか、問題が行き着くべきところはどこなのかということは、とてもとても大切なテーマになります。

1. 霊的問題に制限などない。

そのために、まず第一に、その問題がどのような性格、性質のものなのかを正しく理解しなければなりません。特に霊的な問題には制限などありません。つまり、差別などないということです。

1) 人と国と時代を選ばない。

霊的な問題は、人と国と時代などを選ぶことなどありません。ユダヤ人、異邦人とを分けて考えていました。それは人の都合であって、霊的な問題がユダヤ人なのか、異邦人なのか、ギリシャ人なのか、ローマ人かなどを気にしません。そういうことに制限されません。先進国があり、また途上国があります。先進国だから霊的な問題を恐れて、途上国には入りやすいということなどありません。多くの人が勘違いをしています。霊的な問題はそのような制限などはないということをまず覚えなさいといけません。人間的な基準で見たときには、善人がいて悪人がいるかもしれませんが、霊的な問題は善人、悪人などと分けることはありません。また年を取って経験豊富だから霊的な問題が入りやすい、小さな子どもはまだそんなに汚れてないので霊的な問題などないだろうと思うでしょうが、今日の聖書を見ても、小さな娘が悪霊に憑かれていたと紹介されています。つまり、問題は男女なども問いません。霊的な問題は、年によって制限されることなどありません。老若男女どちらでも関係ありません。それが問題の性質、特に霊的な問題の性質であることをまず心に覚えましょう。

2) 悪霊のやりたい放題（普遍化、多様化）

言葉を変えますと、このように言えます。霊的な問題は、悪霊のやりたい放題です。それを少し格好良い言葉で申し上げると普遍化と言います。悪霊のやりたい放題なので、多様化します。その人に合わせて制限されることなく悪霊が自由に入り込んで、霊的な問題を起こしてしまうということ覚えましょう。

3) 精神、肉体、災難、才能

悪霊が自分のやりたい放題でその人の精神の方に入り込んでしまいますと、精神的な問題を引き起こします。うつ状態になり、また何かの依存症に囚われるようになる場合もあります。特に悪霊がその人の精神の方に入り込んだときに一番目立つ症状が、被害妄想というものです。その被害妄想の精神状態が、結局、自分自身にダメージを与える自害の方に走ると、その極めつきが自殺です。そして、その被害妄想が他人に危害を加える加害の方に走ったときには、犯罪になったり、戦争を起こしたりすることになってしまいます。たぶんプーチン大統領もものすごい被害妄想にいま囚われていると、私は推測しています。

4) 誰も止められないし、何も役に立たない。

このように悪霊が自分のやりたい放題なので誰も止められないし、それが精神の方に入り込むとこのような症状になり、また肉体の方に悪霊が入り込むと、血管やさまざまな臓器などに入り不思議な病気、なかなか治らない不治の病などの症状を引き起こすことになります。そして、この悪霊が災いをもたらすようになります。悪霊の働きにより災いに見舞われたり、事故にあったり、さまざまなトラブルによって崩れていくようになります。つまり災難に遭遇することになります。悪霊はそのようにも働きます。特に一番厄介なのは、人の才能の方に悪霊が入り込むときです。才能そのものは悪いものではありませんが、その才能に悪霊が入り込むと、人間が神から離れて暗闇に溺れて滅びるように、ものすごい

作品を作り上げることになります。才能にも悪霊が入り込みます。悪霊が入り込まないところはどこにもありません。制限などが無いということをぜひ覚えてください。だからこそこの霊的な問題は誰にも止められないし、何も役に立たない、そのようなものだという事をまず私たちが理解しないとイケません。

5) 霊的無知

しかし、霊的な問題の一番の大きな問題は、自分に、家族に起きた問題が、このような性質の霊的問題だということ誰ひとりとして分かっていないということです。霊的な無知ということが、実は一番大きな問題なのです。これが霊的な問題が持つ性質なんだということをぜひ心に覚えましょう。だから、自分だけが大変な問題を抱えていると、特別な意識など持たないようにしましょう。形が違うだけであって、また程度の違い、時期の違いなどにはありますが、特別なものではなくて、悪霊のやりたい放題であり、普遍性を持つそのような問題なので、特別な意識を持って他人と比較して比べたりすることがないようにしましょう。人々はこのような霊的な問題、さまざまな問題をどのように処理するかと言いますと、今申し上げました霊的な問題の性質が何か分かっていない霊的な無知のゆえに、この問題をどうにかしようとしてもがきます。これが第1の反応です。どんなにもがいても解決に至らないので、あきらめてしまいます。あるいは違う超越的な何かの力を求めて行くようになります。今の世の中ではさまざまな宗教、特に三団体はこのような人の動きを利用して、そこに入り込んであるわけです。どうにもならないので、何か今までにない、経験したことの無い超越的な何かの力を求める人の心理を利用して、そこに入り込んで人々を惑わしているわけです。今そのような時代を私たちは生きています。もちろん今の時代に限られる話ではありません。形がちょこちょこ変わっているだけであって、いつの時代もそのような誘い込む霊の動きというものがありました。

だからまずクリスチャンの私たちは霊的な問題がどのような性質を持っているのかを正しく理解して、また、人々がどのようにそれを処理しようとして苦勞し滅びていくのか、悪魔がそれをまた利用しているのかということなどをしっかり踏まえて、二番目です。霊的な問題をどのように処理すべきなのか。霊的な問題をどこに持って行くべきなのか。霊的な問題の行方は一体どこなのか。行き着くべきところはどこなのか、ということをお話してしっかりと理解し握って自分のものにしましょう。いま霊的な問題の性質をお話ししました。

2. 霊的問題はキリストへ案内するガイドである。

理由は二番目です。霊的な問題は、もがいて解決できるものでもないし、何か違う力を求めて行くから解決になるものでもないし、またそういうことは求められる内容ではありません。霊的な問題はキリストへと案内するガイドなのです。大学に行っても、政治界、また経済界、芸術界、芸能界、どこに行ってもこのような教えはありません。聖書の他にはありません。だから、ほかのすべてに蓋をして、神のみことばに耳を傾けましょう。霊的な問題は単につらいだけの問題でもなく、もがきなさいというサインでもなく、霊的な問題はいくらどんなにつらい大変な問題であっても、キリストへと案内するガイドなんだ、ありがたいものだとして処理しなければなりません。そこが私たちが抱えている霊的な問題を持って行くべきところ、行き着くべきところなんです。みなが違うところに行くわけです。残念なのはクリスチャンでさえ教会でさえ問題を違うところに持って行くということです。問題の行方が全くさまよっているのです。もう一度言います。霊的な問題はキリストへと案内するガイド、ありがたいものだと受け止めて、そのように対処していかないとイケません。

1) 素直な問いかけ

だから、まず素直に問いかける率直な気持ちになることが神様の恵みなのです。例えば今日の聖書に登場しているギリシャ人の女の人は異邦人です。当時ギリシャというのは、もちろんローマに負けてしまいましたが、ものすごい文化を誇っている国でした。ユダヤ人、イスラエルなどはいくらでも無視できるような、そういう文化を持っている国がギリシャでした。そのギリシャ人の女の人が、もし自分の娘が悪霊に取り憑かれる、つまり霊的な問題を抱えることがなかったとすればどうなったのでしょうか。キリストなど気にしていたのでしょうか。当時はユダヤ人のメシヤと言われていましたが、それもメシヤなのかどうかもよく分からない状況の中でキリストを求めてきたのでしょうか。自分の娘が悪霊に取り憑か

れて、どうにもならない霊的な問題を抱えることになりました。もしそういうことがなかったら...これが素直な問いかけです。そして、この娘の問題がお母さんが頑張って解決できる程度の問題、世の中の力でどうにかできるような問題だったとすれば、キリストを求めてここまで来たのでしょうか。違うでしょう。霊的な問題、悪霊に取り憑りかれる問題だったからこそ、すべてが崩れてキリストの方に案内されることになりました。ありがたいことではないでしょうか。それが霊的問題というものなのです。サマリヤの女の人は5回結婚して5回離婚をして6回目は入籍しないまま同居し、人の目を避けて生きていたし、私の人生、希望などはない、もうおしまいだという霊的な問題を抱えた女の人でした。もしそうでなくて女の人の家庭環境がハッピーだったらキリストの前にひざまずくことなどあったでしょうか。ニコデモは世の中にあるすべてを手に入れていた者です。名誉、富、力、人気、学歴、学識すべてを手に入れていた者でした。しかし、ニコデモにどういう問題なのか分かりませんが、そういう世の中のすべてが手に入ったにもかかわらず解決できない何かしらの霊的な問題を抱えていたでしょう。だから夜にこっそり、危険を覚悟の上でキリストを求めてきたわけです。もし社会的に成功し、富も名誉も地位もすべて手に入れていたニコデモがこのような問題を体験することがなかったとすれば、キリストなど気にもしなかったでしょう。だから良かったのではないのでしょうか。具体的な内容が書かれていないのでよく分かりませんが、ニコデモにそれほど歯痒い、それほどどうにもならない何かの問題を抱えることになったというのは幸いだったわけです。キリストへと案内するガイドなんだという解釈以外の解釈はすべて切り捨てないといけません。何も問題がない平坦な人生が幸せな幸いな人生だというイメージがありますが、本当にそうなのでしょうか。神様を離れている人生の中に平坦だからといってそれを祝福、幸せと言えるものなのでしょうか。神を離れているのに何も問題が起こらない、平坦だからといって良かったな、幸せだなと言えるのでしょうか。神を離れている以上、何の問題がないということはありません。例えば、今日目立つ問題が何もない、平坦だ、それで私はハッピーだと思うことはむしろ呪いではないのでしょうか。それはもしかしたら神様に見捨てられているから、そういう状況になる可能性もあるわけですね。よくよく考えてください。何が幸せなのでしょうか。何を求めているのでしょうか。

2) 悪霊の働きと神様の許し

なので、霊的な問題を扱うときには、まちがいなく今日の聖書に登場する小娘のように、悪霊の働きに間違いありませんが、と同時にそこに悪霊の働きと神様の許しが共存しているということを見逃してはいけません。それが人の問題であり、特に霊的な問題です。平坦だからハッピー、問題があるから不幸という単細胞的な考え方はクリスチャンには通用しません。

3) キリスト or Not

何が幸せでしょうか。神様を離れている以上、キリストなのか、そうでないかが幸せの基準なのです。プリントには英語で書きました。キリスト or Not。クリスチャンの私たちの胸に、それが刻印されなければなりません。多くのクリスチャンがいまだになぜ葛藤を覚えて、本当の意味での祈りができないかと言いますと、これが整理されていないのです。幸せ、祝福は、富をどれほど手に入れているのか、健康なのか、病気なのか、お父さんが優しい人なのか、まともな人間なのか、あるいは変な人間なのか、そういうことによって左右されるものではありません。どうせ神から離れているこの世の中を生きるので、そういう問題は形が違うだけであって誰も抱えていることなのです。その中で問題は平坦あるいは問題でなくて、キリスト or Not なのです。

4) すべての理由(傷)を片付けて、キリストへ

レムナントの皆さんは、小さい時からこれをしっかり胸に覚えて、今、皆さんなりに家庭や友だちや学校や周りや教会に対してのいろいろな葛藤を正しく片付けて整理しないとはいけません。問題があるから私がつらいわけではなくて、私の脳細胞の中に、たましいに、キリスト or Not と刻印されていないから葛藤に苛まれることになるわけです。なので、霊的な問題をどのように処理すべきなのかという問題に対して今まで持っていた理由、正しいか正しくないか、祈る理由、誰かのせい、何かのせいにしてきたその理由、そういう理由そのものが全部心の傷として残っている訳です。それに対して霊的な問題はキリストへと案内するありがたいものだということだけを残して全部片付けないといけません。つまり、今まで何が正しいか正しくないか、誰が正しいのか、合っているのか、そうでないのか、

誰かのせいなのか、何かのせいなのかと思っていたすべてが、それではなくてキリストへ案内されるために、キリストの方に行き着くために神様が許されたことなんだ。悪霊はそのように私の弱さにつけこんで働いたでしょうけれども、神様はそのすべてを許されて、神様のなさること、神の愛を実現なされた神の許しなのです。キリスト以外には何にも残らないように。それが問題の行方です。このように処理して、私たちが抱えている問題の行き着くべきところがキリストにならないといけません。

3. 問題は Only キリストの信仰に立たせる祝福である。

それからもう一つ、三番目です。霊的な問題は単にキリストに案内するだけのガイドではなくて、Only キリストの信仰に立たせる神様の祝福なのです。この女性がイエス様を訪ねてきて、私の娘から悪霊を追い出してくださいと必死に懇願しました。その時にイエス様が不思議なことをなさいます。まず、イスラエルの、つまり神の子どもにパンをあげるべきであって、犬にあげるべきものではない。イエス様がその女の人を犬と置いていたわけではありません。ユダヤ人の一般的な思想、考え方、見方があったわけです。ユダヤ人は神の子、それ以外の民族は全部犬、獣と置いていたわけです。その思想に基づいてこの女の人を試したわけです。今ユダヤ人の目から見たときには犬ではないのか。なんで犬にこの尊いパンをあげるのかとおっしゃったわけですね。試したわけです。テストしました。すると女の人が何言ってるのか。せっかく来たのになんでこんな侮辱されないといけないのかと怒るはずの場面なのですが、女の方は「おっしゃるとおりです。しかし、犬も子どもの食卓から落ちるパンくずを食べるのではないのでしょうか」と言ったわけです。皆さん、どのように思いますか。この場面での女の方の答えに対して。

1) キリストを離れる数多くの理由

つまり、キリスト、キリストと従っていても、キリストから離れる多くの理由が生じます。今見たように侮辱される、無視される、何かの苦しみを受けること、また利害関係に絡むようになるときにキリストから離れるのです。実際、多くの方がイエス様に従っていましたが、最後には一人も残りませんでした。教会に通っていてもキリストから離れる人、そして、実際、今礼拝をささげている心はキリストから離れている人が多いわけです。そこに自分なりの理由があるわけです。ある人は自分の大きなミス、過ち、失敗に悩んで、何かの呵責を感じてキリストから離れる場合もあります。そのようにキリストから離れる数多くの理由を悪魔サタンは取り上げます。

2) Only キリスト

それに対してこの女の方は、私にはそのような理由は存在しません。キリスト Only です。その告白をしたわけです。食卓から落ちるパンくずというのは、どんなに無視されて侮辱されたとしても、それが気に障るかどうかの次元ではなくて、だとしてもキリストの他には希望がないのです。この世が、あなたがなんと言おうが、キリストだけが希望なのです。そして、イエス様、あなたはそのキリストだから、私は離れることはできません。Only キリスト。パウロと同じ告白です。キリストのゆえにすべてをちりあくとおっしゃいますというふうにご告白していた場面なのです。その後、イエス様が「あなたがそこまで言うのであれば」とおっしゃいました。女の方が言ったことに対して、そこまで…。どういう意味なのでしょう。イエス様がテストした時に、女の方がイエスはキリスト、キリスト Only ですよという告白をしました。それを聞いて「そうか。あなたの娘はもう治ったんだよ」とおっしゃいます。その時、悪霊が娘から追い出され娘は正常に戻っていたと書いてあります。これが霊的な問題の醜態味なのです。表現がちょっとおかしいですが、生ぬるい問題はその対応も生ぬるいのです。霊的な問題、人の手に負えない問題はついつい被害妄想によって他人と比較しようというところに悪魔サタンは持っているのです。しかし、つらいでしょうけれども霊的な問題の行方はそこではありません。行き着くべきところはキリストであり、Only キリストなのです。Only キリストと告白してもらうための材料なのです。その他の解釈などは全部切り捨てるように。死と罪の原理の中で取り上げられる論調、理論、主張など全部切り離すように。これだけです。霊的な問題の行方、行くべきところは Only キリストです。

3) キリストの力が実際に

となったときに、あなたがそう言うのであればと、悪霊が追い出されました。神様は霊的な問題を通し

てすべてを下ろして、キリストだけ、Only キリストを告白してもらうために、その瞬間、悪霊が追い出され、暗闇の力が砕かれて、神の国が臨まれることを体験するようになります。教会に通っていても、礼拝に出席していても、このような神の国を体験することがなかなかないのではないのでしょうか。なぜかと言いますと、あまりに問題がないからです。あるいは問題を処理する仕方が間違ってるからです。死と罪の原理の中にある世の中の法則に従って問題を処理しようとするから、行方が違うところに行ってしまうのです。東京に行くべきなのに大阪向きになっているのです。必死でどうにかしようとする気持ちは分かりますが、それは問題の行くべきところではありません。キリストに案内するガイドとして問題を処理しましょう。そして、私が本当に Only キリスト、侮辱されてもどういことがあってもキリストから離れることはできません。キリスト Only ですよ。こういう表現は合っていませんが、たとえば地獄に行くことがあってもキリストですよ。これは相反する話ですが理解してもらうために。それが Only キリストなのです。ちょっとしたことを言われてもフラフラ、もう教会やだー... キリストはそういう方ではありません。犬と言われてもあなたしかありません。犬でなくて猫と言われたとしても、蟻と言われたとしても。キリスト、あなたしかありませんと告白してもらうために、皆さんに「なんで私にこんな問題があるの」と思っているその問題が許されているわけです。なぜつらいのでしょうか。今までずっと問題を正しく処理してないからです。問題がいま行方を失い、さまよっているのです。問題の、特に霊的な問題の行きつくところはキリスト、Only キリストです。

だから皆さん、どのような問題でも、特に霊的な問題、どうにもならない問題に対して感謝しましょう。まず感謝からです。それで他人と比較しないで、キリストに向かって Only の信仰の材料にして、ひとりひとりが本当に待ってください。神の国を体験して証人になることを期待して祝福します。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。霊的な問題を今までのように扱わずに、聖書で言われている通りにキリストへと案内するガイドとしてありがたく受け止めて、特に Only キリスト、すべてをちりあくと切り離す信仰に立って、神の国を体験する材料として受け止め感謝し賛美を捧げることができるように、ひとりひとりを祝福してください。悪霊の偽りが、策略がすべて崩れ落ちることをひとりひとりが見ることができるよう導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン